

とは蛤坂の邊ならんか。改作所舊記に載せたる享保五年里正の書付に、寛文中石川郡窪村市右衛門と云ふ者、山より松木を盗伐し、殊に見咎めたる足輕に疵付候故、橋爪に而御仕置に被付。とあり。按ずるに、右は寛文二年二月の事にて、橋爪は犀川橋爪なるべし。又菅家見聞集に、寛文七年に、馬廻組今枝牛之助若黨、犀川橋之下にて引張切に被仰付。といふ事も見たり。是より後々にも死罪の者をせしめられし事などあり。國初以來の名残ならんか。

○犀川橋爪丸山

利家卿の時犀川橋爪を丸山と稱したるよし、貞享二年の如意坊由來書に載せたり。按ずるに、右丸山は今云ふ蛤坂の邊ならんか。昔は丸山と稱し、小高き丘なりしを、町名と成りたる頃平均したるなるべし。

○因幡藥師如意坊齋址

貞享二年の泉野寺町天台宗因幡藥師別當如意坊由來書に云ふ。利家卿の御代に犀川橋爪を丸山と稱し、於此所當寺開山空傳法師、本尊因幡藥師を令勸請候處、萬治年中に御

用地に被召上、泉野寺町に代地拜領被仰付。とありて、三箇屋版六用集にも、如意坊泉野と記載す。文化三年の由來書に、如意坊享保六年三月翠雲寺と改稱。因幡藥師屋敷之後岸崩れ、居住難成に付、今之地被下。とあり。按ずるに、右丸山の舊地は甚だ古き事なる故に、今其の遺跡も詳かならず。萬治年中に移轉せし地は、延寶の金澤園に妙慶寺の筋向に藥師と載せたり。此の地なる事知られけり。其の後再轉せし地は、野田寺町の入口極樂寺の向ひなりしが、明治八年に能登珠洲郡三崎高勝寺跡へ翠雲寺を移轉し、藥師佛は卯辰最勝寺へ移し、今最勝寺に安置す。此の佛像は因幡國鳥取洪水之砌、堂塔海中へ流れ入り、久しく海中に有之處、加賀國能美郡安宅之沖へ流れ寄り、漁夫共夢想の告げ二・三夜も織き有之、不思議の思を成し網を下しけるに、

藥師佛像を曳上げたり。依つて其の在所に堂宇を建立し安置せしを、利家卿之時如意坊空傳法師犀川橋爪の丸山へ勸請せし由、彼の由來書に載せたり。其の巨細なる事は卯辰上小川町最勝寺藥師堂の條に記載せり。

○瓶割坂

野町へ登る橋爪の小坂の古名也と云ふ。舊傳に云ふ。昔源義經奥州下りの時、召仕の女を同道ありけるに、路中にて出産し、其の胞衣を入れたる瓶をば、此の坂路にて取落し打碎きける故に、瓶割坂の名遣れりと。此の事三州名跡誌等にも載せられたり。俗諺取るに足らず。按ずるに、越後名寄に、越後國頸城郡上輪村に龜割坂と云ふあり。道より一町許隔りて、水田の邊に産水と云ふあり。義經世を忍んで奥へ下り給ふ折節、北の方此所にて頓に出産ありしに、辨慶取計ひ、此の水にて浴せしめけるとかや。近頃高田の領主より石の井筒を置き、又道の傍に産所の址とて標を建てたり。上輪村は最も賤村なれど何か謂れありけん、五月帯をする事なく、今の世に至りても難産なし。とあり。但しかめ割坂の來歴は傳言なきか記載せず。平次按ずるに、今能登國羽咋郡生神村の生神社にも、産水の池とて社前に井戸あり。此の村民も出産甚だ安らかなる事、世人の知る處也。邑傳に、昔判官義經の妾此所にて難産あり。行末産婦を守らんと誓ひあるに依つて、其の靈を祀れりといひ傳へたり。義經の奥州下向に北陸道通行の事は、東鑑に文治元年

十一月十七日の條に、伊豫守者假山臥之妾逐電訖云々。同二年六月廿一日の條に、爲搜尋求行家義經隱居所之。於畿内近國云々。若狹・越前・加賀・能登・越中・越後云々。國々被下院宣。とありて、義經記にも、文治二年三月加賀國を経て、奥州へ下られし事を載せたり。但し濱路通り通行にて、金澤の地を通行ありしことは見えずといへども、白石紳書・北國巡杖記などに、富樫介が義經の爲に金澤春日山にて酒宴を設けし事を載せたり。皆後人の附會並不足取と三州志難繼餘考にもいへり。されば瓶割坂の傳説も全く後人の附會なりし事いちじるし。思ふに、義經記に御産安々としたまひけり。武藏、少人のむづかる聲を聞きて、後隱に押巻きて抱き奉る。何とはしらねども御躰の緒をつぎ参らせて、御湯をひかせ奉らんと、水瓶にあげたる水にて洗ひ奉り、やがて御名を付け参らせん。是はかめわり山、龜のまこうを取て、鶴の千歳をなぞらへて、龜鶴殿とぞ付奉る。とあり。さればかめ割坂の名も若しくは彼のかめわり山てふ言よりいひ出でたる附會の俗説にてもあるべし。

○野 町